

《内ようをとらえる》

文章の内ようをとらえる問題をとくためには、次のじゅん番で考える。

- (1) ア〜エなどの文の内ようが文章中のどこに書かれているかをさがす。
- (2) それぞれの文の内ようが正しいかどうかをかくにんする。

【例題】

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

秋に木の下を歩いていて、地面にどんぐりが落ちていたのを見つけたことはありませんか。そのどんぐりの落とし主は、ナラやシイ、クヌギやカシワなどの大きな木です。この落とし主のしゅるいによって、どんぐりの形も少しかわってきます。

昔はリスと同じように人間もよくどんぐりを食べていました。リスと同じようにとっても、そのままでは食べません。どんぐりは、そのままだとたいはどてもしぶくて、食べられないのです。ですから、細かくくだいてこなししたあと、水の中に何日もつけておいたり、灰といっしょにぐつぐつにたりします。そうすることで、いやな味のもとが流れだして、食べやすくなるのです。

クリと同じように木になる実のどんぐり。そのどんぐりは、よくこなししてから丸めて、おだんごとして食べられたので、「だんごぐり」ともよばれたそうです。どんぐりは、

昔の人たちにとって、とても身近なものだったのですね。

(問) この文章の内ようど合っているものを、あとのア〜エから二つえらび、記号で答えなさい。

- ア ナラやシイ、クヌギやカシワなどの木のしゅるいによって、その木になるどんぐりの形がかわる。
- イ どんぐりは、こなししてゆでて食べることができるので、今でもよく食べられている。
- ウ どんぐりはクリと同じように、よくだんごにして食べられたので、「だんごぐり」とよばれた。
- エ どんぐりは「だんごぐり」とよばれて、昔の人たちにとっても身近なものになっていた。

【答え】 ア・エ

【かいせつ】

ア〜エの文が文章中のどこに書かれているかをさがし、合うか合わないかをかくにんします。この場合アは、「そのどんぐり〜かわってきます」という部分をさがし、合っていることをかくにんして答えにします。イは「昔は〜いました」という部分をさがし、「今でもよく〜」というのが反対であることをかくにんして×にします。ウは、「クリと〜よばれたそうです」という部分をさがし、クリもだんごにするというのがまちがっていることをかくにんして×にします。エは「おだんご〜だったのですね」という部分をさがし、合っていることをかくにんして答えにします。

【練習しよう】

次の文章を読んで、あとの問に答えよう。

あと一時間。もう少しで先生が家にやってくる。お母さんは、とくいのアップルパイをやいている。おちやうけにするつもりらしい。今日は家庭ほうもんなのだ。ぼくは、どきどきして落ちつかなくなってきた。ふだんは、とくべつ悪いこともしていないとは思うけれど、ついこの間宿題をわすれてしまった。先生は、お母さんにどんなことを言うのだろうか。

ついに、先生がやってきた。お母さんは、先生をリビングに通してから、ぼくに自分の部屋へ行くようにと言った。そこで、ぼくは自分の部屋へ行くとすぐに、かべに耳をつけた。話が気になってしょうがないのだ。ぼくの部屋はリビングのとなりであり、耳をつけるとかすかにリビングでの話し声が聞こえる。

「まあ、そんなことがあったんですか。」

宿題のことを言われているのかと思って、よく聞こうと思ったが、先生の声が小さくてわからない。

「あの子は、ペットの世話もできないような子で。」

と、またお母さんの声があった。なんだか、ぼくはダメなところばかりの人間みたいで悲しくなってきた。もう話を聞く気分ではなくなってきて、ぼくはテレビゲームを始めた。

しばらくして、お母さんがぼくをよびに部屋にやってきた。

「先生がお帰りになるから、あいさつをしなさい。」

ぼくがさようならとあいさつをすると、先生はいつもとかわらないにこにこした顔でさようならと言い、お母さんにおじぎをして帰っていった。ぼくがうつむいていると、お母さんが

「今日は、たっちゃんの好きなハンバーグだね。」

と言ったので、ぼくは目をまるくしてしまった。先生にダメなことばかり言われたのに、どうしてハンバーグなんだろう。

「先生がね、言ってたよ。たっちゃんは、毎日お昼休み、学校のかだんにお水をあげているんだって。だれにも言われていないのに。お母さん、うれしくなっちゃった。」
 なんだ、そのことだったのか。ぼくは、きれいなお花がどんどん育っていくのがうれしくて、水をあげただけなのに。お母さんのきげんがとってもいいので、ぼくもうれしくなってきた。今日の夜ごはんは、ハンバーグだ。

(問) ぼくの気持ちのへん化としてもっとも合っているものを、あとのア～エからえらび、記号で答えなさい。

- ア かなしみ↓ふ安↓おどろき↓よろこび
- イ ふ安↓かなしみ↓おどろき↓よろこび
- ウ かなしみ↓ふ安↓よろこび↓おどろき
- エ ふ安↓かなしみ↓よろこび↓おどろき

イ 答え

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

だんだんと寒くなってきたころ、シロはやっと大きく、元気になりました。ちよつと見たただけでは、足にけがをおっていることなどわかりません。動けなくなつて雨にうたれたまま、やせ細った体を空き地に横たえていたのが、今ではうそのようです。毎日のさん歩では、わたしが引っぱられるぐらいに走り回っています。

シロは少し動けるようになったころから毎朝、新聞受けからわたしのところまで新聞を運んできます。それもかならず、さん歩が終わつた後の朝ごはんを食べるときに運んできます。わたしがごはんを食べながら、新聞を読むのをシロは知っているのです。他には、いつもわたしが帰る時間をおぼえていて、その時間になるとベランダの大きなまどからしっぽをふつてわたしをむかえてくれます。シロは、ほんとうに頭のいい犬なのです。

わたしは、もうシロなしの生活は考えられません。シロは、一人でくらすわたしの生活を、温かくしてくれます。しかし、シロが家にきたときに、シロは首わをしていました。だから、シロの足がすっかりなおつたら、元のかい主のところへ返すことになると思うのです。わたしはそのことを考えると、今からなみだがあふれてきます。

(1) — ①線部「シロ」というのは何の名前ですか。

--

(2) — ②線部シロが「動けなくなつて雨にうたれたまま、やせ細った体を空き地に横たえていた」のはなぜですか。
□にあてはまるように、文章の中からぬき出しなさい。

--

いたから

(3) シロが、毎日朝ごはんの時間に新聞をわたしのところに運んでくるのはどうしてですか。そのことが書かれている一文をぬき出し、はじめの七字を答えなさい。

--

(4) シロがいなくなることを考えると、わたしはどうなつてしまいますか。そのことが書かれている部分を、文章の中から十四字でぬき出しなさい。

--	--

(5) シロはどんな犬ですか。あてはまるものをあとのア〜エからえらび、記号で答えなさい。

- ア あまえんぼうな犬 ウ 新聞が大すきな犬
イ さん歩が大すきな犬 エ おりこうな犬

--

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

みなさんは、だいたい何時間くらいねむっていますか。生まれたばかりの赤ちゃんは、一日に十六時間から十八時間ねむっているといわれています。大人に近づくとつれて、すいみん時間が短くなり、四才くらいで十〜十二時間、十才になると十時間以下で足りるようになるそうです。大人のすいみん時間は、ふつう七〜八時間くらいです。

では、②からだがかいふくするまでに、さいてい何時間くらいねむればよいのでしょうか。それは、人によってさまざまであるといわれています。つまり、五時間ぐらいで足りる人もいれば、八時間でも足りない人もいるということです。ちなみに、夜ぐっすりねむれなかったり、昼間なのにとでもねむくなったりするのは、病気のかのうせいがあります。③こういったすいみんにかかわる病気は、からだや心のいろいろな面からちりようしていかなければなりません。ぎやくにいうと、すいみんはからだと心にかかわる、大切なはたらきだといえます。「ねる子は育つ」ということばもあるぐらいです。よふかしをせず、きちんとねることを心がけていきたいですね。

(1) ①線部「大人に近づくとつれて、すいみん時間が短くなり」とありますが、赤ちゃんど大人のすいみん時間は一日にだいたい何時間ですか。それぞれ、文章の中から書きぬきなさい。

赤ちゃん	ふつうの大人
------	--------

(2) ②線部「からだがかいふくするまでに、さいてい何時間くらいねむればよいのでしょうか」とありますが、その答えを文章の中から十二字でぬき出しなさい。

(3) ③線部「すいみんにかかわる病気」には、どういったちりようがひつようですか。□にあてはまるように、文章の中からぬき出しなさい。

のちりよう

(4) この文章の中で、ひつ者が一番いいことは何ですか。あてはまるものをあとのア〜エからえらび、記号で答えなさい。

- ア 十才になるとすいみん時間は、十時間以下で足りるようになる。
- イ すいみん時間が、五時間ぐらいで足りる人もいれば、八時間でも足りない人がいる。
- ウ すいみんはからだと心にかかわる、大切なはたらきなのである。
- エ 夜ぐっすりねむれなかったり、昼間でもねむくなつてねむったりするのは、病気のかのうせいがある。

--



(4) この文章は、まとめていうと、どんなことについてせ
つめいしていますか。あとのア〜エからえらび、記号^{ごう}で
答えなさい。

- ア 地しんのときにドアをどうするか。
- イ 学校で勉強している時に地しんがきた場合の注意。
- ウ とつぜん地しんにあったときののげ方。
- エ 地しんにあったときの階だんのおり方。





次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

さいきん、東京など関東に大きな地しんがくるのではないかと、わたしたちは、けいかいを強めています。もし、みなさんが学校で勉強している時に地しんがきたら、いったいどうすればよいのでしょうか。

地しんがいきなりきたら、びっくりしてしまいかもしれませんが、落ち着いてしずかに先生の言うことを聞きましよう。地しんで一番こわいのは、火事になってしまふことです。突けんや、調理などで火を使っていたら、ただちに消しましょう。

次に、ドアの近くにいたら、ドアをすぐに開けましよう。ドアがしまったままにしておく、地しんがおさまって「さあ、今からひなんしよう」というときに、ドアが開かなくなつて出られなくなることがあるからです。

それから、ぎぶとんやパーカーのフードなどがあればそれで頭を守り、つくえの下にもぐります。まどや本だなの近くにいる人は、注意がひつようです。

地しんがおさまったら、先生の指じにしたがいひなんけい路を通して、校庭の真ん中にひなんします。この時、先生の指じを聞かずに、いっせいに階だんへ行くとたいへんなこととなります。もし一人が転んだとすると、多くの人が転ぶことになるのです。ドミノだおしをイメージすると、いかにきけんかわかりますね。

地しんだけではなくさいが起こった時は、つねにいせいに行動することが大切なのです。

(1) わたしたちは、どんなことに対してけいかいを強めていますか。文章の中から二十二字でぬき出しなさい。

(2) ドアをしめたまましていると、ひなんしようと思った時に、どうなってしまうことがあるのですか。文章の中から二十二字でぬき出しなさい。

(3) ひなんするとき先生の話を聞かないで、いっせいに階だんへ行くとどんなことが起こりますか。それが書いてある一文をぬき出し、はじめの五字を答えなさい。

--



(4) この文章は、まとめていうと、どんなことについてせ
つめいしてありますか。あとのア〜エからえらび、記号で
答えなさい。

- ア とつぜん地しんにあつたときのにげ方。
- イ 地しんのときにドアをどうするか。
- ウ 地しんにあつたときの階段のおり方。
- エ 学校で勉強している時に地しんがきた場合の注意。

